

子どもが安心して学べる学校

いじめを許さない学校

思いやり溢れる学校

基本方針

- *学校教育目標：「自ら求め成し遂げる（自求成遂）」生徒の育成
- *重点目標：支え合う学校 高め合う学校
 - ①支え合いで安心感が高まる ②学び合いで確かな学力が身につく ③高め合いで互いの力がさらに伸びる
- *5つの柱の推進「命を大切にします」「自分や他人の人格を尊重します」「集団生活の秩序を守ります」「学習の場にふさわしい身だしなみをし、持ち物にも留意します」「礼儀正しく品位ある言動をとります」

【未然防止】

- *ピアサポートによる温かい人間関係づくり
- *わかる授業の実践
- *道徳教育、人権教育の充実
(ピアサポート、エンカウターの導入)
- *生徒集会や縦割り活動、学校保健集会等の活用
- *KJQ を活用したより深い生徒理解
- 昨年度の取り組みの評価 —
- ・『Good job 自分』（ピアサポート活動）の実施
- ・学校を楽しんでいる生徒・・・88.9%（学校評価）
- ・授業の内容が分かっている生徒・・・83.9%（学校評価）
- ・自分や他人の人格を尊重している生徒・・・97.8%（学校評価）

【早期発見】

- *いじめに関するアンケートの実施
- *生活ノート（北極星）の点検
- *全生徒が教師と面談の機会をもつ
(ポラリスタイム、教育相談等)
- *生徒が教師に対して、何でも話せる・書ける関係づくり
- *生徒への日常的な声掛け
- 昨年度の取り組みの評価 —
- ・学校独自に生活実態調査（年3回実施）
- ・ポラリスタイム（1年生対象に実施）

【早期対応】

- *気になった生徒へ早めに関係職員が声をかける
- *報告、連絡、相談の徹底
- *担任だけでなくチームで対応する
(フレキシブルに動け、すぐ集まる)
- 昨年度の取り組みの評価 —
- ・隔週の定例生徒指導部会で対応検討（年間18回）
- ・毎週のサポート会議で支援の必要な生徒への対応検討（年間27回）

【小学校との連携やPTA、地域との連携】

- *本部会、運営委員会での情報共有する
- *学校の取り組みを学校新聞等で保護者や地域に発信する
- *小学校との情報を共有する『拡大教務会等の活用』
- *民生委員との連携の充実

【児童生徒が自ら考える場・機会の設定】

- *学級活動・道徳の授業で「いじめについて考える場」を設定する
- *生徒会本部、生活、広報、図書、保健等の関連専門委員会によるいじめ撲滅運動や啓発活動、ピアサポート活動

【いじめ対策委員会】

- 委員
校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、学年主任、特別支援教育コーディネーター、学級担任、養護教諭
場合によって、スクールカウンセラー
スクールソーシャルワーカー、学習支援相談員、学校運営協議会委員（委員長、PTA会長等）

【職員研修・指導体制】

- *サポート会議、生徒指導部会の充実、連携
- *「一報」による情報の共有 *生徒理解研修 *夏季研修会
- *事例研究会の実施 *生徒理解ファイル
- 【特別支援教育の推進】生徒の学びやすさ、生活のしやすさ
- *ユニバーサルデザインの考えを環境面、学習面に生かす
- *北中UDプロジェクト
- 【生徒と向き合う時間の確保】*勤務の適性化と効率化

【関係機関との連携】

- ・市教委
- ・藤枝市子ども未来応援局
- ・中央児童相談所
- ・少年サポートセンター